

平成26年度第1回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：平成26年9月2日（火） 13時～14時40分

場所：教育委員会室

議事1 平成26年度予算について（報告）

■資料1に基づき事務局より説明

議事2 教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価について

■資料2に基づき事務局より説明

■主な意見

- 教育委員会で出された意見等を各所属へ周知し、施策へ反映させていくことが必要。
- 評価に当たって、各取組の最終的な到達目標を明確にした方が、進捗がわかりやすい。
- 当該年度に実施予定であったことを明確にすれば、自己評価とはいえ、客観性が出る。
- 各事業の対象となった人のニーズやリアクションを評価内容に盛り込んでいけばよりわかりやすい。
- 県が主体的に取り組む施策や学校・地域等の取組を支援する施策など、県の役割分担を考慮して評価を行う必要がある。
- 自己評価であるが、より客観性を持たせることについて検討して欲しい。
- 年々、点検・評価の仕組みや方法は、精錬されてきたと思う。
- 特別支援教育は乳幼児期からの早い段階でのケアや、保護者へのきめ細かいケアが重要。
- 発達障害については、早い段階でのケアが重要だが、このことが特別支援学校での児童生徒数の増加の要因にもなる。
- インターネットによるいじめ問題について、親のメディアの使い方も注意が必要。
- いじめや不登校対策について、学校や家庭、地域、関係機関の連携を図りながら、社会総がかりで取り組むことが重要。
- いじめの解消に向けた取組も大切だが、いじめの予防にどう取り組んでいくかも重要。
- 心の教育に関する取組の評価が低いので、さらなる取組が必要。
- 自分の命を大切にする教育に一層取り組んでいくことが重要。
- 食育については、シングルマザーの家庭で子どもが朝食を摂らないなど、家庭環境によって左右される。
- 学校の安心安全という点で、今後は食物アレルギー対策や疾病予防等にも一層取り組んでいくことが必要。
- 体力調査の結果は、努力しても上げ止まる（天井効果）ものであるなので、指標として設定するとしてもその点を考慮しておく必要がある。
- スポーツ経験者というのは企業に入っても重宝されるので体育高校の設置を検討してはどうか。
- 自己評価であるが、より客観性を持たせることについて検討してほしい。
- 年々、点検・評価の仕組みや方法は、精錬されてきたと思う。